

# 安全データシート

作成・改訂 2018年3月1日

製造者情報	会社	株式会社デルフィーノケア		
	住所	東京都目黒区中目黒 2-6-24 1F		
	電話番号	03-4405-8130		
	FAX 番号	03-4330-1213		
製品名	delfino (デルフィーノ)			
危険有害性の分類	分類	分類基準に該当しない		
	危険性	消防法 非危険物		
	有害性	現在のところ有用な情報なし		
	環境影響	現在のところ有用な情報なし		
組成・成分情報	単一製品・混合物の区分	混合物		
	成分	(成分名)	(CAS No)	
		銀	7440-22-04	
		酸化チタン	13463-67-7	
		プラチナ	7440-06-4	
		水	7732-18-5	
		その他		
		化学式又は構造式	特定できない	
		官報公示整理番号	必要あるものは登録済み	
		国連分類及び国連番号	該当しない	
	P R T R 法	該当しない		

応急措置	目に入った場合	清浄な水で十分に洗浄した後、異常があれば医師の手当てを受ける。
	皮膚に付着した場合	皮膚刺激や炎症が発生した場合、水で十分に洗い流す。
	吸入した場合	気分が悪くなった場合は、直ちに使用をやめ。新鮮な空気を吸わせる。
	飲み込んだ場合	直ちに水で口をすすぎ、可能であれば嘔吐させ、医師の診断を受ける。
※上記応急措置を行っても回復しない場合は、本製品を持参のうえ、医師の診断を受ける。		
火災時の処置	本製品は水を多量に含むため、引火性・発火性はありません。尚、製品乾燥物に引火した場合には次の処置を行う。	
	消化法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 火元への燃焼源を断つ。</li> <li>2. 初期の火元には、大量の水噴霧、または粉末、炭酸ガス等の消火剤による消火を行う。</li> <li>3. 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。</li> <li>4. 周囲の設備等に散水して冷却する。</li> <li>5. 消火作業の際には風上から行き、必ず保護具を着用する。</li> <li>6. 火災発生場所の周辺には、関係者以外の立ち入りを禁止する。</li> </ol>
	消火剤	泡、粉末、炭酸ガス消火剤、乾燥砂
漏出時の処置	漏洩した場所周辺にはロープを貼るなどして、人の出入りを禁止する。必ず保護具を着用し、風下で作業しない。 少量の場合は布巾などで拭き取る。大量に流失した場合は回収して適当な容器に入れる。	
取り扱い及び 保管上の注意	取り扱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合には、保護具を着用する。</li> <li>2. 換気の良い場所で取り扱う。</li> <li>3. 容器は必ず密封する。</li> <li>4. 炎、火花又は高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。</li> <li>5. 常温で取り扱うものとし、その際、水分、夾雑物の混入に注意する。</li> </ol>
	保管	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 冷暗所で風邪通しの良い場所に保管する。</li> <li>2. 火気、熱源から遠ざけて保管する。</li> <li>3. ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触ならびに同一場所での保管を避ける。</li> </ol>
暴露防止処理	管理濃度	規定なし
	許容濃度	規定なし

設備対策	取り扱い近くの場合に水洗、洗顔装置を設ける事が望ましい。
保護具	保護眼鏡：飛沫が飛ぶ場合に着用する。 保護手袋：ゴム手袋を着用する。 保護衣：長時間取り扱い、又は濡れる場合は耐油性の長袖作業着等を着用する。 呼吸用保護具：必要に応じて防毒マスクを着用する。

物理／化学的性質	外観	乳白色液体
	揮発性	なし
	pH	11.7～12.0
危険性情 (安定性・反応性)	引火点	なし
	発火点	なし
	爆発限界	測定データ無し
	可燃性	なし
	発火性	なし
	酸化性	なし
	安定性	安定
	反応性	強酸化剤との接触を避ける
	自己反応性	なし
	爆発性	なし
有害性情報 (人についての症例 症学的情報を含む)	皮膚腐食性	なし
	刺激性(皮膚)	陰性
	感作性	陰性
	急性毒性	経口ラットLD50: 5000mg/kg 以上
	変異原性	陰性
	生殖毒性	報告事例なし
	催奇形性	報告事例なし
環境影響情報	分類性	現在のところ有用なデータなし
	蓄積性	現在のところ有用なデータなし
	魚毒性	現在のところ有用なデータなし
	その他	データなし

廃棄上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業者は、産業廃棄物を自ら処理するか、又は知事等の許可を受けた産業廃棄物処理事業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。</li> <li>2. 残余廃棄物については、燃焼炉の火室へ噴霧し、焼却する。</li> <li>3. 使用後の容器または配管等を廃棄処分するときには、内容物も水洗いしてから処分する。</li> <li>4. 廃水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、又は関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。</li> <li>5. 燃焼する場合は、安全な場所且つ燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行うとともに、見張り役を付けること。</li> </ol>
--------	---

輸送上の注意	陸上輸送	運搬に際しては、容器に漏れないことを確かめ、転倒・落下・損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実にを行う。
	海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
	航空輸送	航空法に定めるところに従う。

適用法令	消防法	非危険物
	労働安全衛生法	通知対策物質
	第 57 条 2 関係	
	P R T R 法	非該当

その他（記載内容の問合せ先、引用文献等）	1. 許容濃度の勧告（1996）日本産業衛生学会 産業医学 38 巻（p172～183）
	2. Thershold limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH (1996～1997)
	3. IARC MONOGRAPHS ON THE EVALIATION OF THE CARCIONGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME33
	4. 製品の安全データシートの作成指針（日本化学工業会）

この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。

以上